

第 2 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.01
	縄文弥生			

[問題 1]

右の資料は、ナウマン象の化石や打製石器が発見された場所を示したものである。ナウマン象が活動し、人々が打製石器を使っていたころの日本列島の様子を説明した文として正しいものを 1 つ選べ。

- ア 今よりも海水面が高く、ナウマン象の化石や石器が発見された場所のみが日本列島であった。
 イ 今と同じ海水面であった。
 ウ 今よりも海水面が低く、大陸と陸続きであった。



[解答欄]

ウ

[解説]

[野尻湖の化石]

ナウマン象とオオツノジカの化石
 氷河時代海面が低く、大陸と陸続き



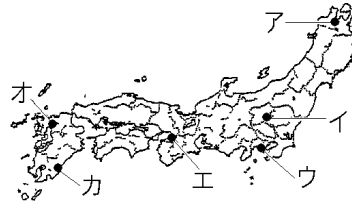
長野県の野尻湖では、数万年前の地層からナウマン象のきばとオオツノジカの角の化石が発見された。氷河時代には、陸地に降り積もった雪が凍ってしまうために海水が減り、しばしば海面が今よりも 100m 以上も低く、日本列島が大陸と陸続きになっていた時期があった。

そのため、北からはマンモス、南からはナウマン象やオオツノジカなどの大型の動物がやってきた。これらの動物を追って日本列島にやって来た人々は、打製石器をつけたやりなどを使って、動物をとらえたり、植物を採集したりして食料にしていた。
 人々は 10 人前後の集団をつくり、簡単な草ぶきの小屋や岩かげなどに住みながら獲物を求めて移動し、火を使ってくらしていた。

[問題 2]

次の各問いに答えよ。

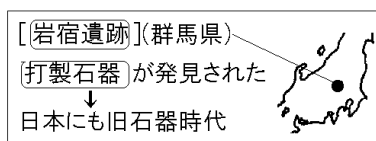
- (1) 右の資料は日本で初めて発見された、石を打ち割ってつくった〇〇石器である。〇〇にあてはまる語句を答えよ。
- (2) (1)の石器は、どこで発見されたか、下の地図のア～カから選べ。また、それは何県にあるか。



[解答欄]

(1) 打製	(2) イ、群馬県
--------	-----------

[解説]



かつては、日本には旧石器時代はないと考えられていたが、1946年に群馬県の岩宿遺跡で打製石器が発見され、日本にも旧石器時代があったことが明らかになった。

[問題 3]

次の年表について、後の各問いに答えよ。

年	できごと	遺跡
約 70～1 万年前	A 大型の動物を追って人々が大陸から来る。 打製石器が使われる。	長野県の(①)湖 群馬県の(②)遺跡
約 1 万年前	氷河期が終わり、日本列島ができる。	

- (1) 上の年表中の①、②にあてはまる語句を書け。
- (2) 年表中の A の「大型の動物」にあてはまるものを次の[]から 2 つ選べ。

[いのしし ナウマン象 アジア象 オオツノジカ]

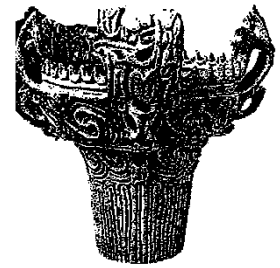
[解答欄]

(1)①野尻	②岩宿	(2) ナウマン象、オオツノジカ
--------	-----	------------------

[問題 4]

次の文の①～④の()内から適する語句をそれぞれ選べ。

右の資料は①(弥生／縄文)土器である。かたい木の実などを煮炊きする、または保存したりするのに用いられた。この土器の特徴は、表面に②(縄目／うずまき)模様がほどこされ、比較的③(薄手／厚手)であることである。また、低温で焼かれていたため、色は④(赤褐色／黒褐色)をしている。



[解答欄]

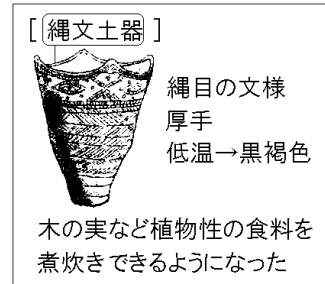
①縄文	②縄目	③厚手	④黒褐色
-----	-----	-----	------

[解説]

日本列島の人々は、1万2000年ほど前から土器を作り始めた。この土器は縄文土器と呼ばれ、世界的に見ても古い年代とされている。

縄文土器が使われていた時代を縄文時代という。

縄文土器の特徴は、厚手で、低温で焼かれたため黒褐色をしており、表面に縄目のような文様がほどこされていることである。木の実など植物性の食料の保存や、煮たきのために土器を使うことができるようになり、食べられる物の種類が増えて、食生活は豊かになった。(たとえば、ドングリはしぶみがあるためにそのまま食べることはできないが、土器で煮炊きしてしぶみをぬけば食べることができる。)



[問題 5]

次の文の①～③に適語を入れよ。

縄文時代は、世界史的には新石器時代で(①)や牧畜が始まっていたが、日本では食料が豊富だったため、(①)や牧畜は発達しなかった。人々は(②)住居に住んでいた。海岸や水辺には食べ物の残りをかすを捨てた(③)ができた。

[解答欄]

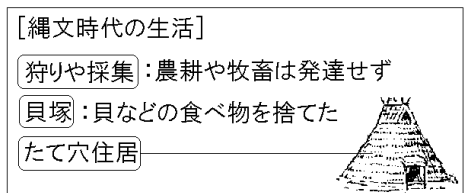
①農耕	②たて穴	③貝塚
-----	------	-----

[解説]

日本列島では、氷期が終わって気候が暖かくなったことで森林が広がり、食用となるどんぐり・くりなどの木の実や、いのしし・しかなどのけものが増えた。また、海面が上昇して入り江にめぐまれたために魚や貝類が豊富にとれるようになった。この時代、世界史的には新石器時代で、農耕や牧畜が始まり、日本列島でも植物(そば、ひょうたん、いもなど)の栽培が始まったが、食料が比較的豊富であったため、農耕や牧畜は発達せず、主として狩りや採集によって食糧を得ていた。

海岸や水辺には、貝がらなどの食べ物の残りをかすなどを捨てた貝塚ができた。

旧石器時代のように、獲物を求めて移動する必要がなくなり定住するようになった。縄文時代の住居はたて穴住居である。たて穴住居は、地面を掘り下げて床とし、草ぶきの屋根をかけたもので、床のまん中には石でかこんだ炉を作り、炊事や暖房に使った。



[問題 6]

次の各問いに答えよ。

(1) 図 1 は、稲の穂をつみ取るために使われた道具である。

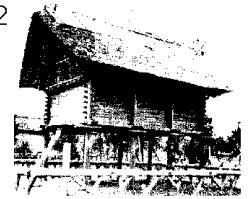
この道具は何か。

(2) 弥生時代に作られた図 2 のような建物を何というか。

(3) 図 2 の建物の床が高くなっているのはなぜか。



図2



[解答欄]

(1) 石包丁	(2) 高床倉庫
(3) 収穫した米をねずみや湿気から守るため。	

[解説]

紀元前 4 世紀、中国や朝鮮半島から、**稲作**が九州北部に伝えられ、やがて東日本にまで広がった。人々は水田の近くにむらをつくって住み、**たて穴住居**の近くには、収穫した米をたくわえるための**高床倉庫**もつくられた。高床倉庫は、**ねずみや湿気を防ぐために床を高くしている**。**石包丁**は稲の穂をつみとるのに使われた。

[稲作]の伝来]

紀元前4世紀

中国や朝鮮半島から伝わる

高床倉庫 ねずみや湿気から米を守るため



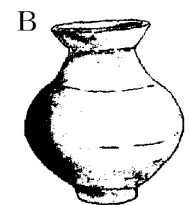
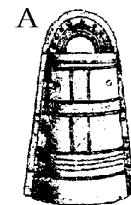
石包丁



[問題 7]

次の文の①～③に適語を入れよ。

紀元前 4 世紀ごろ大陸から稲作が伝わったが、稲作とともに青銅器や (①) などの金属器が伝えられた。右図 A は青銅器の一種の (②) で、祭りのための宝物として用いられた。(①)は、武器としてや木製の農具や舟を作る道具として用いられた。右図 B は (③) 土器といわれ、薄手でかたく縄文土器に比べると上質だった。



[解答欄]

①鉄器	②銅鐸	③弥生
-----	-----	-----

[解説]

稲作とともに、**青銅器や鉄器**などの**金属器**も伝えられた。銅剣・銅矛・**銅鐸**などの青銅器はおもに**祭りのための宝物として用いられ**、鉄器は武器として使われたほか、木製の農具や舟を作る道具として用いられた。
このころに作られた**弥生土器**は**かざりが少なく薄手で赤褐色をしている**。

[金属器や弥生土器]

金属器(青銅器, 鉄器)

弥生土器



かざりが少なく
薄手で赤褐色

